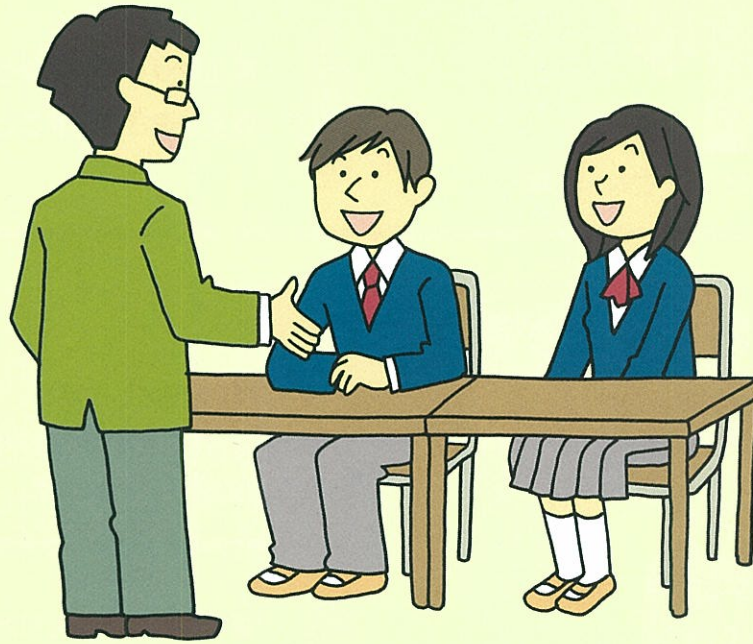


高等学校における 発達障害の生徒たち

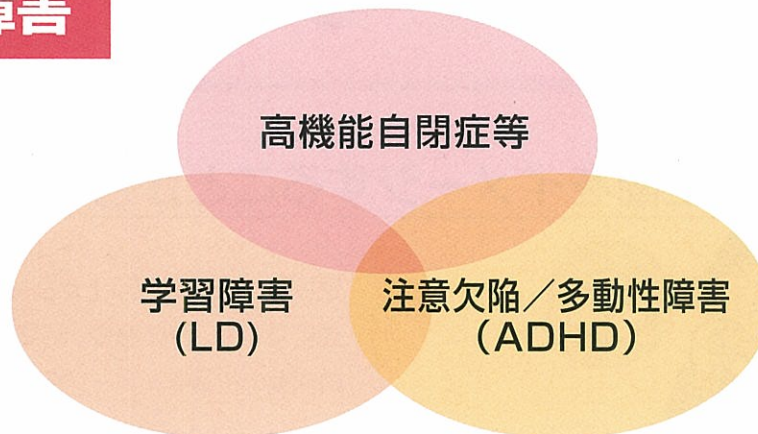
教師がかわれば、生徒もかわる

発達障害のある生徒は、一見ただけではその特性がわかりにくいのですが、様々な困難をかかえています。教師が生徒の特性に“気づき”、障害を理解し、適切な対応等の支援を行うことで、生徒も自分の実力を発揮できます。

発達障害についての共通理解を図り、発達障害のある生徒たちを学校全体で支援していきましょう。



発達障害



原因として、中枢神経系に何らかの機能不全があると推定されています。
いくつかの症状が重なって現れることも多くあります。

群馬県教育委員会

平成21年3月

学習障害(LD)

(Learning Disabilities)

主な特徴

学級や日頃の授業の中で、次のような姿を見かけませんか？

● 聞くこと、話すことが苦手



言おうとすることばが出てこない 等

話の内容や話の流れをとらえながら行う集団での話し合いが苦手です。また、言おうとする言葉が出ないこともあります。

その他にも…

- ・話を理解していなかったりする
- ・適度な速さで話すことが苦手 など

● 読むこと、書くことが苦手



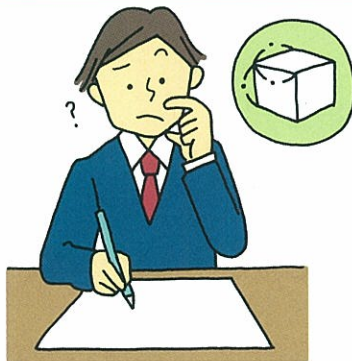
音読等は、とてもゆっくり

文字や行を飛ばして読む、形の似た字を間違える、枠やますからはみ出して文字を書くなどの姿が見られます。

その他にも…

- ・漢字のへんとつくりが逆になる
- ・音読や話の内容・意味を読み取ることが苦手 など

● 計算、推論、空間をイメージすることが苦手



上下、左右等の空間をイメージすることが苦手

足し算、引き算、繰り上がり・繰り下がり、仮説を立てること、表の意味、時間の流れ、東西南北の空間の位置をイメージすることが苦手です。

その他にも…

- ・数字の桁がそろわない
- ・カレンダーの意味が分からない
- ・大きさ等をイメージすることが苦手 など

以上のような姿が見られる生徒には、特別な配慮や支援が必要です！

主な対応

次のような点に配慮しましょう。

1. 学習障害は、「認知」に係る障害です。

人は、目や耳、鼻、皮膚などの感覚器官を使って、ものの形や色、臭い、堅さや柔らかさなど周りの情報を取り入れています。この情報は、脳へと伝達され、脳の中では記憶にある知識と照らし合わされて、次に何をするか決め、その指示に従って話したり、身体を動かしたりしています。この流れを認知といいます。この流れがうまくいかない障害が学習障害です。これまでの保護者の養育が悪いのでも、本人がさぼっているのでもありません。

2. 「見たもの」「聞いたもの」を区別することへの支援をしましょう。

「は」と「ほ」、「わ」と「ね」、「6」と「9」など形の似たものは、線の数や文字の一部分の形の違い、文字の向き等に注目できるように、朱線で印を付けたり、透明なボードに文字を重ねて違いを確認したりするなどの配慮をします。

※時間をかけて、間違いやすいポイントを指導します。

3. 必要な情報だけを取り出すことの支援をしましょう。

私たちはあることを記憶する時に、憶えるものや事象を意識して、そのものの形や特徴等の情報だけを取り出して、記憶しやすいようにしています。見たものや聞いたものの中で、必要なものだけを記憶することが苦手な生徒には、絵や写真を使って視覚的に事象が意識できるようにしたり、文字を大きくして必要な情報をとらえやすくしたりします。

4. 人と同じようにできることもあるので、障害に気づかない場合があります。

登下校や着替えなど、できる活動もたくさんありますので、障害に気づかない場合があります。そのため、学習の場面などでは、本人にやる気がないと受け取られ、周りは叱咤激励をします。しかし、かえって自信ややる気を失うことがありますので、慎重に支援します。また、周りの友人は、そうした姿を見て、いじめの対象とする場合もあります。

5. 他の障害を併わせもつ可能性があります。

LDとADHD、LDとてんかん等、障害が重複する場合があります。こうした場合は、専門的な配慮が必要になりますので、専門機関に相談してください。

注意欠陥／多動性障害 (ADHD)

(Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)

主な特徴 日頃の生活・活動の中で、こんな生徒の姿を見かけませんか？

● 不注意…他のことに気を取られやすい



気が散りやすい

ADHDの生徒は注意の集中・持続に困難さがあります。話を最後まで聞いたり、じっくり取り組んだりすることが困難です。

その他にも…

- ・整理整頓が苦手
- ・ケアレスミスや忘れ物が多い
- ・指示に従えず、作業を最後までやり遂げない
- ・作業の優先順位がつけにくく、準備や片づけに時間がかかる など

● 衝動性…よく考えず急に行動してしまう



すぐに怒り出してしまふ。

ADHDの生徒は、自分の行動をコントロールすることに困難さがあります。気分を切り替えたり、自己分析したりすることが難しいのです。

その他にも…

- ・考える前に行動してしまう
- ・場をわきまえずに過度に動き回る
- ・思ったことをすぐに話す など

● 多動性…体のどこかが、常に動いている



着席していても、もじもじして落ち着かない。

ADHDの生徒は、認知面にも困難さがあります。整理されずに多くの情報を受け止めてしまい、落ち着かなくなる原因になっています。

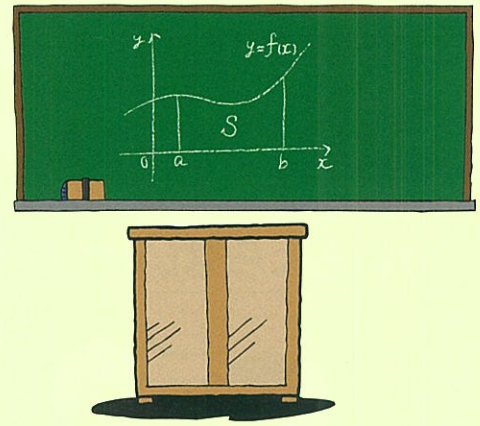
その他にも…

- ・授業中に席を離れる
- ・状況とは無関係に多動である
- ・過度におしゃべりをする
- ・何かに駆り立てられるように活動する など

以上のような姿が見られる生徒には、特別な配慮や支援が必要です！

主な対応

次のような点に配慮しましょう。



1. 環境の整備

- ・ 視覚的に刺激するもの、教室前面の気になりやすい掲示物を取り除きましょう。
- ・ 座席の位置を配慮し、景色や友人等から刺激の少ない環境を作りましょう。

2. 学習課題の設定

- ・ 板書の量や問題数等を絞り、やり遂げられる内容や量にしましょう。
- ・ 授業のめあてを最初に提示するなど、見通しをもって学習できるようにしましょう。

3. 指示や説明

- ・ 名前を呼んだり、近くに行ったりして、相手の注意を引いてから指示を出しましょう。
- ・ ひとつずつ、具体的に、短く、順番に説明しましょう。
- ・ 大事なことは、繰り返し話したり、説明したりするのも効果的です。
- ・ 指示されたことをメモする習慣をつけるようにすることも一つの方法です。

4. 問題行動には

- ・ 何度も厳しく叱るのではなく、正しい行動を伝えましょう。
- ・ して良いこと、悪いことを明確に、表現にメリハリをつけて伝えましょう。
- ・ 気持ちが切り替えられるキーワード（「これが終わったら〇〇ができるよ。」「次は〇〇があるよ。」など）を伝えましょう。

5. 行動への評価

- ・ 時間をおかず、その時その場で正しい行動をほめたり、努力したことを評価したりしましょう。



高機能自閉症等

主な特徴 日頃の生活・活動の中で、こんな生徒の姿を見かけませんか？

● 思いもよらない行動をとる（社会性の特性）



悪意なく悪口を言ってしまう

高機能自閉症やアスペルガー症候群の生徒は「マナー」や「社会常識」が苦手です。どこからどこまでが失礼にあたるのか分からないのです。

その他にも…

- ・ 集団行動が苦手、友達ができない
- ・ 空気が読めない
- ・ 常識がない言動をとる など

● 会話がうまくできない（コミュニケーションの特性）



会話に割り込み、自分の話ばかりする

高機能自閉症やアスペルガー症候群の生徒は気持ちを通じ合わせて会話することが苦手です。また、自分の世界の話をしがります。

その他にも…

- ・ あいまいな質問に答えられない
- ・ 慣用句や冗談を額面通りに受け取る
- ・ 必要以上にていねいな言葉を使う など

● 応用が利かない（想像力の特性）



毎日決まった時間に登下校する

高機能自閉症やアスペルガー症候群の生徒はこだわりが強く、一度決めたことを曲げません。考えや発想の転換が苦手なのです。

その他にも…

- ・ 漢字・歴史などの暗記が得意
- ・ 一方で作文や文章問題が苦手
- ・ 決まりをかたくなに守る など

● 視覚・味覚・嗅覚・聴覚の敏感さ、鈍感さ



夏でも長袖を着ている

高機能自閉症やアスペルガー症候群の生徒は目で見たものを覚えるのが得意ですが、他の感覚には鈍感なことがあります。

その他にも…

- ・ 大きな音や騒がしい場所が苦手 など

以上のような姿が見られる生徒には、特別な配慮や支援が必要です！

主な対応

次のような点は特に注意して支援しましょう。
注意するときは叱らずに言い聞かせるようにしましょう。

- ・失礼な態度や発言
- ・恋愛への思いこみ など



次のような点を配慮しましょう。

1. 得意な分野を伸ばす

よくできたことは認め、ほめることで自信がつき、自己肯定感を高めることができます。
これにより二次的な障害となる精神的ダメージを防ぐことができます。

2. 怒鳴らない

注意するときに、怒鳴ったり大声を出したりすると、恐怖体験として残ってしまいます。

3. 前もって予定を知らせる

変化が苦手なので、時間割の変更や授業担当教員の変更は前もってスケジュール表や予定表を配付して、教えましょう。



4. ゆっくり、ていねい、明確な指示

- ・「もし~だったら」や「~そうだったら」などの仮定やあいまいな表現は避け、短いことばで簡潔に指示しましょう。
- ・授業におけるプリントなども例文や例題を四角で囲むなど工夫しましょう。

5. 居場所づくり

休憩時間などの自由な時間に何をしたいかわからないときや、ストレスのためにパニックを起こしたときに、自ら落ち着くための場所が必要です。このような場所や時間をなるべく確保しましょう。

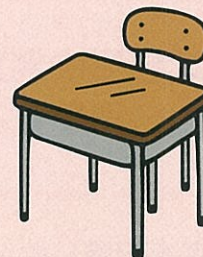


発達障害の二次的な障害とその支援

発達障害はこころの病気ではありませんが、正しい理解や支援が得られないと、精神的疾患や次のような二次的な障害を引き起こすことがあります。

学習に関連して

- できないことへのいらだち、劣等感、挫折感、孤独感、虚無感等を蓄積してしまふことがあります。
- できないことからのストレスがたまり、情緒的に不安定になったり、意欲減退、食欲不振になったりします。



人間関係に関連して

- 友人や教師と上手にかかわりがもてないことからの挫折感、孤独感、虚無感等を蓄積してしまふことがあります。
- いじめで悩んだり、逆に友人をいじめたりすることもあります。

このような二次的な障害を防ぐためには、周囲の理解と雰囲気づくり、自己肯定感を高める指導が必要です。

学級経営の充実

- ◆ 周りの友人と違うことを認め合える雰囲気づくりに努めましょう。
- ◆ いじめの対象とならないように特に留意しましょう。早めの対応が必要です。
- ◆ 不登校の生徒の中にも、発達障害のある生徒がいる可能性があります。その場合は、本人の特性に合わせた支援をしましょう。
- ◆ 小さい頃から、「ダメでしょう」「がんばりなさい」と言われ続けています。自信を失わせないようにすることに留意しましょう。

分かりやすい授業の展開

- ◆ 絵や写真を使って、より分かりやすい授業づくりに努めましょう。
- ◆ 大切なところや重要なところにアンダーラインやマーカーを付け、学習のポイントとなる事項を強調するなど、アクセントのある授業を展開しましょう。

…………… 一人で悩まないで…困ったことがあったら、いつでも相談を！ ……………

● 群馬県総合教育センター

「子ども教育支援センター」で発達相談を行っています。

群馬県総合教育センター<子ども教育支援センター> ☎0270-26-9200

その他…各市町村の障害福祉関係課、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、教育事務所の特別支援教育専門相談員、発達障害者支援センター等で相談も行っていきます。

…………… 参考となる情報を得るには ……………

● 発達障害教育情報センター（国立特別支援教育総合研究所内）

発達障害のある子どもの教育の推進や充実に向けた情報を提供しています。
<http://icedd.nise.go.jp/blog/>